

いやが上にも添めている。この竹の密生地帯には幼児でも捕えることができる程数も多くあり、又案外低いところに止まっている。そればかりでなく我々の眼前をカラスアゲハ、クロアゲハ、モンキアゲハ、ウシアブ、ツチアブが入り乱れて大膽に飛び廻っており、当地方は採集者の未訪度も少い故か、足羽山とは違い随分衆に採集ができる。昼食を済ませた児童達は引平の教師と共に碇々として汗を流してそれらを追い、喉の乾きを清水で潤し、採集会の醍醐味を充分に味う。

同所において本日の指導者福井大学の堀口先生より各々同定をしていただき、各自活潑且つ食べる様は意欲を表わす。

午後2時頃帰路につき添谷地帯の郷社内でシマクトリガ、シリアゲムシ、タマムシ、カワゲラなどを採集する。“とんぼつり今日はおこまこいつたやら”。は昔の事。今の児童達には色も形も肥を圧すカラスアゲハ、モンキアゲハを追いその喚声がこだまする。

午後3時より光陽中学校にて、採集品の同定にかかる。珍種といわれるものは無いが、一般的な昆虫が数多く採れたことに依つて、本日の目的も果せた訳である。

引き続き昆虫の分類の仕方とその特徴の説明があつて、各自がその方法に随つてそれぞれ興味のもとに採集品を分類整理する。

一日の疲れも今日の現場学習によき指導者の御盡力で明日への資となることであらう。

鷹巣海岸生物採集記録

小 林 貞 七

7月に入ってもずっと低温続きで、小学校や中学校の臨海学習が取り止めになる天候異変で、かねて予定した27、28日の磯採集も困難ではないかと案じていた矢先、丁度この頃から天気も回復し真夏らしい暑さとなつて愁眉を開く。酒井博士を招いての臨海採集会も今年で3度目、1、2回は純いて敦賀湾での採集で大いに成績を挙げたが、今年は嶺北の参会者の便を考へて、鷹巣の磯を採集地と決めたわけ。来会者は高等学校の先生数名、小中学校の先生10数名それに、福井大学の学生、高等学校中学校の生徒を混えて40余名の頃合の採集会。

第1回は昼食を早めに済まして正午済会を出発、和布の磯に重地を喰ひ色する。

予願調査に来た時はきつと色々の採集ができるとあてこんでいたが、この海岸一帯は意外に 成積。この五一帯は島影もなく、正面から激浪に洗われる磯であるためではないかと思う。漸く陥溺りの / 個所で可成の場所を見出し、ここに腰をすえて40余名が / 奔に採集を始める。海水が汚く水底が見透せないのが残念である。鷹巢の採集には、敦賀湾と違つたものが多数とれないかと期待したが、そう交つたものもとれない。ただ甲殻類の個体数が多い。それが特に酒井先生の専門であるだけに採集の都度の様々な説明が興味深い。今日の会員は何度もの採集にすっかり要領を覚えて、採集道具の準備も完全。中には手製ののをきき携帯する者も数名ある。採集技術も頗る上達して、数時間毎に浸つて時の経つのも忘れているかの様子。5時頃宿舍に引揚げ。7時から又先生を囲んで海産動物の採集はひやま話を伺う。先生の深い学識と懇切丁寧な説明に海への興味が一層に昂まる。夜も大分遅くなつてから数名は魚のざんを持って海ホテルの採集に、又他の数名はフランクトン採集に出発する。何れも夜であれば出来ない仕事などの事。私は / 里程離れた長橋まで底曳の獲物の交渉に出掛ける。漁師はとにかくこんな面倒な事は嫌うものだが、長橋小学校の三上君の尽力で引き受けて貰える。何れも明日への参会者一同へのサービスである。

翌早朝 / 斗桶 / ばいの底曳の収穫を頂く。小さなカニ、エビ、ヒトデ、ナマコ、魚等をト口箱数個に並べて酒井先生の御指導を受ける。カニの専門家がおよそここに並んでいるもの絶てに詳しいので一同が舌を巻く。会員のこゝでの収穫も仲々大きい。隣ではフランクトンの検鏡が始まる。本口瓶の魚のざんには海ホテルが見当らなかつたのが残念。

第2日は海に入るにはやや寒く、10時頃まで順色で色々の仕事が続く、三々五々同志の楽しい採集談に花が咲く。大人の世界に名利を離れたこんな麗しい雰囲気があるものだろうかと思ふ。10時過ぎ雲が晴れると、大 は裸のうすら寒さをいわず、磯に魅せられて酒井先生をお誘ひして海に入る。もう皆海での採集の興味が忘れられないらしい。これだけでも博物館の採集会は大成功である。来年と又きつとこのメンバーが集つて来るに違いない。酒井先生も館長さんも頗る御満足そうである。

午後2時現地で解散。酒井先生は横浜大学の学芸学部長の御多忙の御身分、大野の御親戚にお立寄にもならないでまつすぐお歸りになつてしまった。明年は又萬障御繰合下さつてお出下さる旨承る。酒井先生はこのさゝやか毎年の採集会がひとく気に入つておられるらしい。たつた数 / 0名のために態々御出張下さる

博士の御好意を広く吹聴したいと思う。

2日間の収獲は次の通りである。

背椎動物 ヌメリゴチ、コチ、マアナゴ、ヨウジウオ、ハリセンボン、
アカタツ、マツカサウオ、ハオコゼ、シマウシノシタ、オキギス、アカエイ、
ホシサメ、ミシマオコゼ、シバメウオ、カマキリ、

背索動物 カラスボヤ、アカイタボヤ、キクイタボヤ、

硬皮動物 イトマキヒトデ、アカヒトデ、ヤツテスナヒトデ、モミシカ
イモドキ、ヒトデ、クモヒトデ、ヤツデヒトデ、ムラサキウニ、バフンウニ、
アカウニ、コマチウミシダ、

節足動物

(1) カニ類 フタボシイシガニ、ヨツバモガニ、イボテガニ、カワリヒ
シガニ、ミスヒキガニ、ヤワラガニ、シワカザミ、イワガニ、ケフサイソ
ガニ、イソガニ、アカテガニ、ベンケイガニ、イツカクガニ、ヒラツメガ
ニ、トラノオガニ、ヨツバモガニ、ヒライソガニ、カネコフシ、クロベシ
ケイ、ヒメソバガラガニ、ヒメケブカガニ、イソカニタマシ、アミメキン
センガニ、アシナカツノガニ、リュコシヤハシテイデイヤ、

(2) エビ類 コノハエビ、イシエビ、アカスシモエビ、シバエビ、セミ
エビ、スシエビモドキ、

(3) 蟹 ハリマンズナモクリ、ヨコエビ、ウミセミ、ヒメハマトビ
ムシ、セスジジヤコ、ウミナナフシ、オウワレカラ、ウミクモ、フナムシ、
イトデヤ、シンイトデヤ、寄生マンキヤク SP

軟体動物 キセワダ、ヒトエガイ、クロヘリアメフラシ、ヒザラガイ、
ニシキヒザラガイ、ヤスリヒザラガイ、

擬軟体動物 コブコケムシ、

環形動物 ウミケムシ、クマノアレツキ、イソゴカイ、イワムシ、フ
サゴカイ、ウロコムシ、

扁形動物 ウスヒラムシ、

紐形動物 ヒモムシ

腔腸動物 シロカヤ、ヒドロゾア SP

海綿動物 ワタトリカイメン、タイタイイソカイメン、